

平成30年度 「ふれあい地域懇談会」報告書

＜ 鎌倉地域一東地区 ＞

日 時	平成30年7月30日（月） 午前10時～正午
場 所	市役所 講堂
出 席 者	自治・町内会代表 15団体：15名 鎌倉市 6名
内 容	<p>第 1 部 市長からの報告..... P. 1 「持続可能な都市『鎌倉』を目指して」</p> <p>第 2 部 地域の懸案事項に関する報告..... P. 21 ① 観光客のマナーの改善について ② 災害時の観光客対策について</p> <p>第 3 部 本年度の地域の議題に関する懇談..... P. 25 ① ごみ処理関連問題及び今後の方針についての報告 ② 交通問題について ③ 防犯カメラの設置について ④ 回覧等について</p>
付 録	当日配布資料..... P. 39

出席者名簿（敬称略）

【自治会・町内会等】

	団 体 名	氏 名	備 考
1	十二所町内会	角田 正敬	会長
2	浄明寺町内会	荒井 正	会長
3	鎌倉ハイランド自治会	阿部 栄子	会長
4	二階堂親和会	大久保 義隆	会長
5	西御門自治会	福井 敏一	会長
6	大蔵自治会	福原 紘一	会長
7	八幡宮前自治会	西山 弘	会長
8	雪ノ下岩谷堂町内会	梶田 俊夫	会長
9	横町町内会	小田切 知彦	会長
10	巨福呂坂町内会	相川 久美子	会長
11	山王台自治会	岩田 薫	会長
12	扇ガ谷下町自治会	平井 修	会長
13	小町二丁目自治会	小泉 親昂	会長（司会）
14	扇ガ谷上町自治会	河内 隆一	会長
15	小町上町明光自治会	宇都宮 忠	会長

【鎌倉市】

	役 職	氏 名	備 考
1	鎌倉市長	松尾 崇	
2	共創計画部長	比留間 彰	
3	行政経営部長	齋藤 和徳	
4	防災安全部長	柿崎 雅之	
5	市民活動部長	奈須 菊夫	
6	環境部長	石井 康則	

第1部 市長からの報告

【全地域共通】

平成30年度ふれあい地域懇談会 第1部市長からの報告



持続可能な都市『鎌倉』を目指して

鎌倉市長 松尾 崇

Takashi Matsuo Mayor of Kamakura

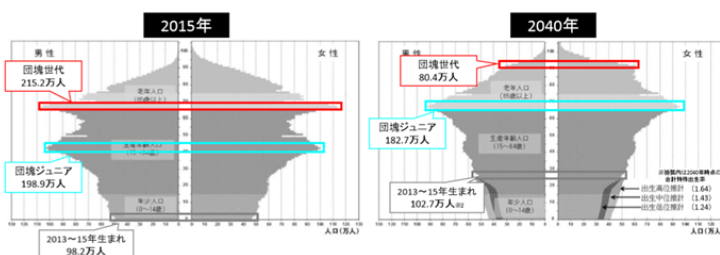
第32次 地方制度調査会

地方の行財政制度を検討する首相の諮問機関、第32次地方制度調査会が7月5日初会合を開いた。人口減の中、高齢化がピークを迎える2040年頃の自治体の姿を描き、必要な法整備を2年間かけて議論する。

安倍首相のコメント

「急速な少子高齢化、深刻な人口減少により歴史上、経験したことのない事態に直面する。具体的な解決策を幅広く検討いただきたい。」

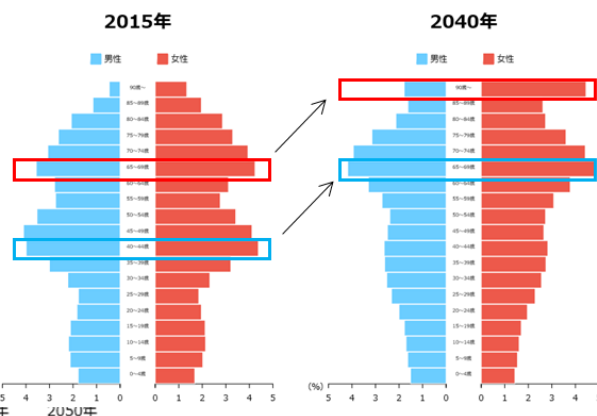
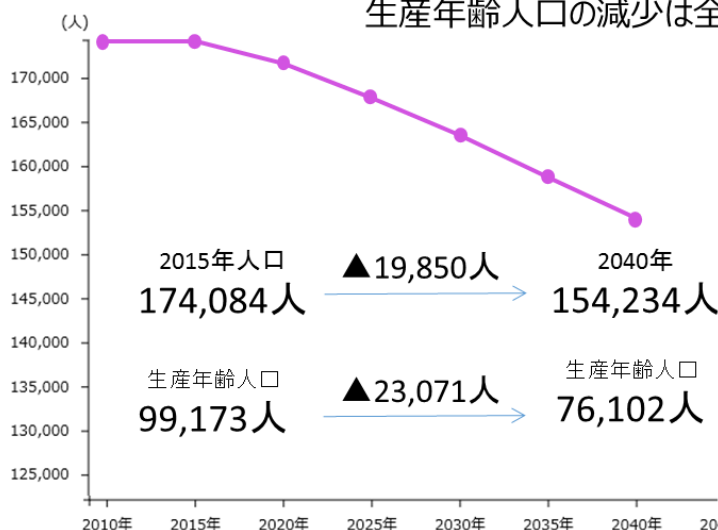
15歳～64歳の働き手世代が 現在の7558万人から40年には5978万人と激減



	出生数	2015年※1	2040年※1
団塊の世代 1947～49年生まれ	267.9万人 ～269.7万人	215.2万人 66～68歳	80.4万人 91～93歳
団塊ジュニア 1971～74年生まれ	200.1万人 ～209.2万人	198.9万人 41～44歳	182.7万人 66～69歳
【参考】 2013～15年生まれ	100.4万人 ～103.0万人	98.2万人 0～2歳	102.7万人※2 25～27歳

鎌倉市に目を向けると

人口は19,850人（11.4%）減少
生産年齢人口は、23,071人（23.2%）減少
生産年齢人口の減少は全国平均の20.9%よりも2.3%高い



鎌倉市が取り組むべき課題

急激な人口減少・少子高齢化の進行は、税収減・社会保障費の増につながる。この様な環境下において様々な課題にどう対応し、持続可能なまちづくりを進めるか。従来のシステムを根本から変えなくてはならない。

- 災害対策（地震・津波・異常気象など）
震度6弱以上の地震が30年以内に来る確立82%（横浜市）：政府地震調査委員会
- 一斉に老朽化する公共施設・インフラの維持管理
- 年間約2,000万人（入込観光客数）の観光客と慢性的な渋滞対策
- 高齢化進行が著しい住宅地の再生（安全安心・コミュニティ再生）

市民の暮らしを守る 「住みたい・住み続けたいまち」をつくる

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）



稲村ガ崎の崖の崩落により
下水道管が破損

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）



岩瀬隧道内の上部の一部が崩落

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）



第一中学校への通学路脇の崖で落石が発生

鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）

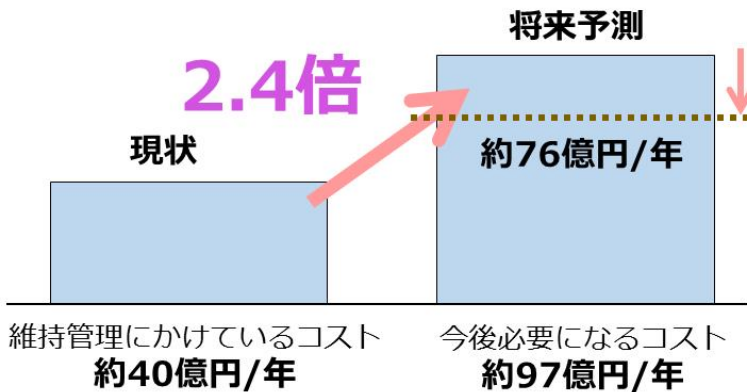
社会インフラの維持管理に必要となる経費は、**年間約97億円**。

現状の約40億円の**2.4倍**となる。

公共施設のように削減することができない。

鎌倉市社会基盤施設マネジメント計画

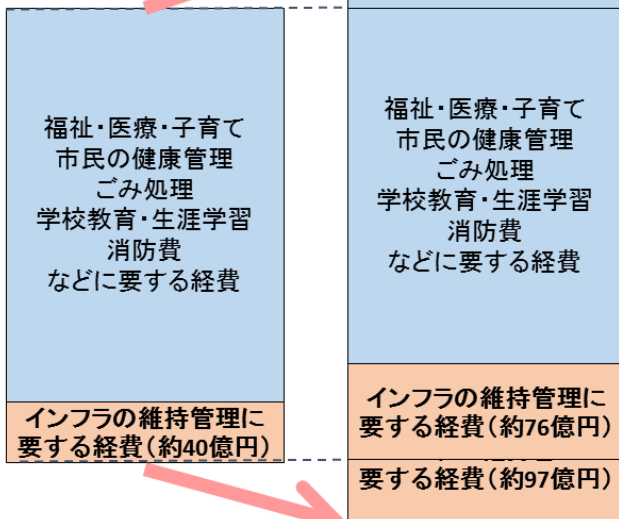
- ・ 管理水準の適正化
- ・ 予防保全型管理方式への転換
- ・ 民間の力を活用したコスト削減
- ・ 適正負担（受益者負担）の見直し
- ・ 災害時の事業継続の視点



鎌倉市政の抱える課題（社会インフラの維持管理）

現 状

将来予測



社会保障費などの増加
(さらに人口減少による歳入減)



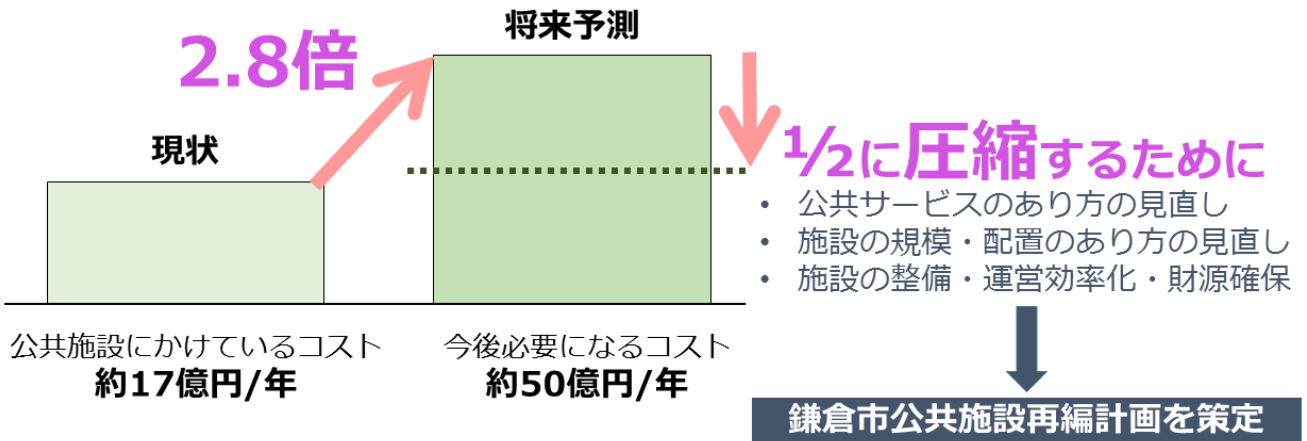
既存事業の見直し
公共施設の維持管理コストの削減



インフラの維持管理に要する経費
の増加

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

老朽化が進む公共施設の維持管理に必要となる経費は、年間約50億円。現状の約17億円の2.8倍となる。



鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

市民の生命を守る災害対策（市役所本庁舎の整備）

建築から約50年

建物・設備の老朽化が進行

災害への備え

最低限の耐震強度はあるものの
防災拠点としての機能強化が必要

スペース不足

執務室の分散により、業務効率
市民サービスが低下

市民参画で検討を重ねる（h28～）



鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

◆ 建設コスト規模の比較（イメージ）

コストメリットが
最大の整備手法

現在地建替え

その他の主なコスト

現在地長寿命化

その他の主なコスト

移転

180億円は、必要な面積に近年の建設コストを乗じた数値
 3.6億円 庁舎のコンパクト化や民間活力の導入に積極的に取り組み
整備コストを圧縮（税の投入を極力減らす）

約194億円

（現在地と別敷地合算）

約207億円

（現在地と別敷地合算）

約180億円

床面積不足による分散化
分散による施工単価増
仮移転によるコスト増

床面積不足による分散化
分散による施工単価増
仮移転によるコスト増
耐震改修による施工単価増

跡地の利活用による
さらなる効果

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

移転場所を深沢地域整備事業用地に決定

現在地

駅前での便利な場所
市民・来訪者にとって快適で魅力的な場をつくる

市民に必要な窓口機能を残し
図書館・ホール等の機能を導入



津波避難ビル
としても機能

鎌倉の価値を
高める
相乗効果



移転先

新しいまちづくりが進む場所
災害に強く、市民が生き生きと健康に暮らせるまちをつくる

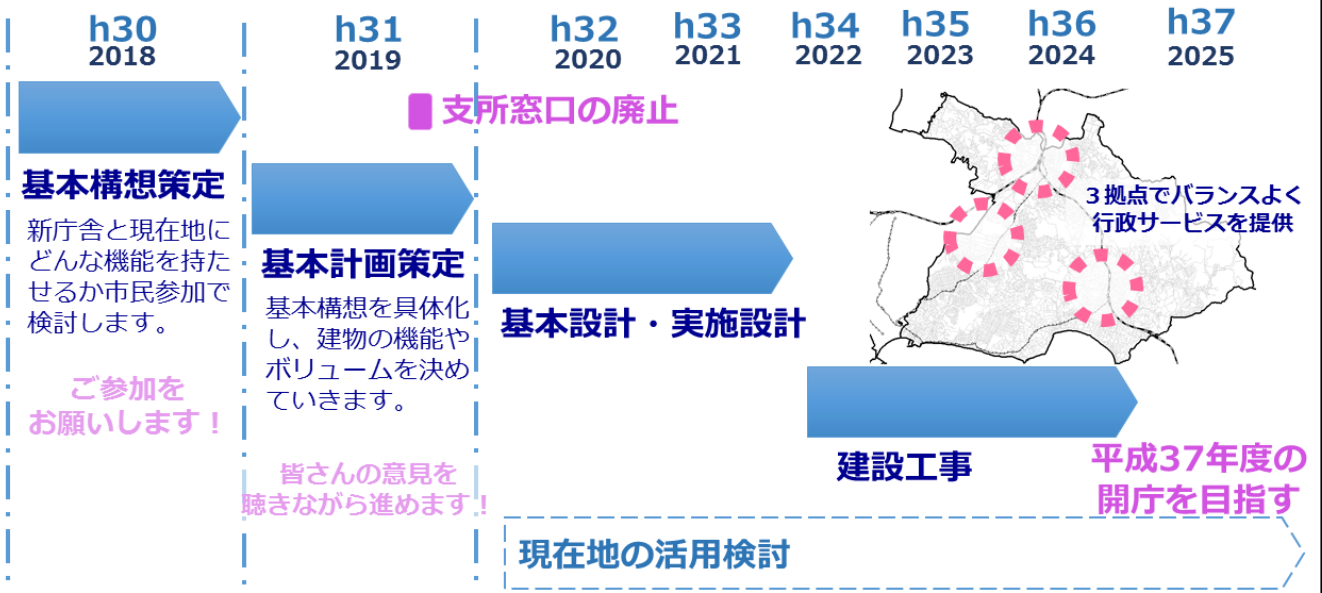
消防本部等との合築により
防災・健康等の価値創造



13

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

今後のスケジュール



鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編）

移転場所を深沢地域整備事業用地に決定

現在地

駅前
の便利な場所
市民・来訪者にとって快適で魅力的な場をつくる

市民に必要な窓口機能を残し
図書館・ホール等の機能を導入



窓口がなくなり不便になるのは困る

現在、本庁舎の1階にある市民サービスのための窓口は、残ります。ICTの活用やコンシェルジュ機能の導入により、利便性の向上に配慮します。

災害時にどうすればよいのか

これまで同様、災害時の支援機能は維持します（この場所に、職員も残ります。）。また、津波避難ビルとしての機能を持たせます。

「民間活力」といって商業施設になっては困る

まずは、周辺の公共施設（学習センター・図書館など）を集約し、市民が集える場所とします。さらに多機能を導入し、市民・来訪者にとって快適で魅力的な場をつくります。今後、皆さんとともに考えていきます。

例えば…このような場所(シリウス：大和)をイメージしています



大和市文化創造拠点シリウス
(大和駅から徒歩3分の場所にあります)



1F エントランス
1F~5Fの各フロアに図書館があります



2つのホールとギャラリーを備えるフロアです。トップアーティストによる公演や展覧会など、身近に芸術文化に触れる機会を提供します。また、市民のみなさまの手による文化活動の発表の場としてもご利用いただけます。

メインホール。1Fには、サブホールやギャラリーもあります。



さまざまな機能が集まった市民交流のフロアです。快適で落ち着いた空間をお楽しみいただけます。

2F 市民交流ラウンジ

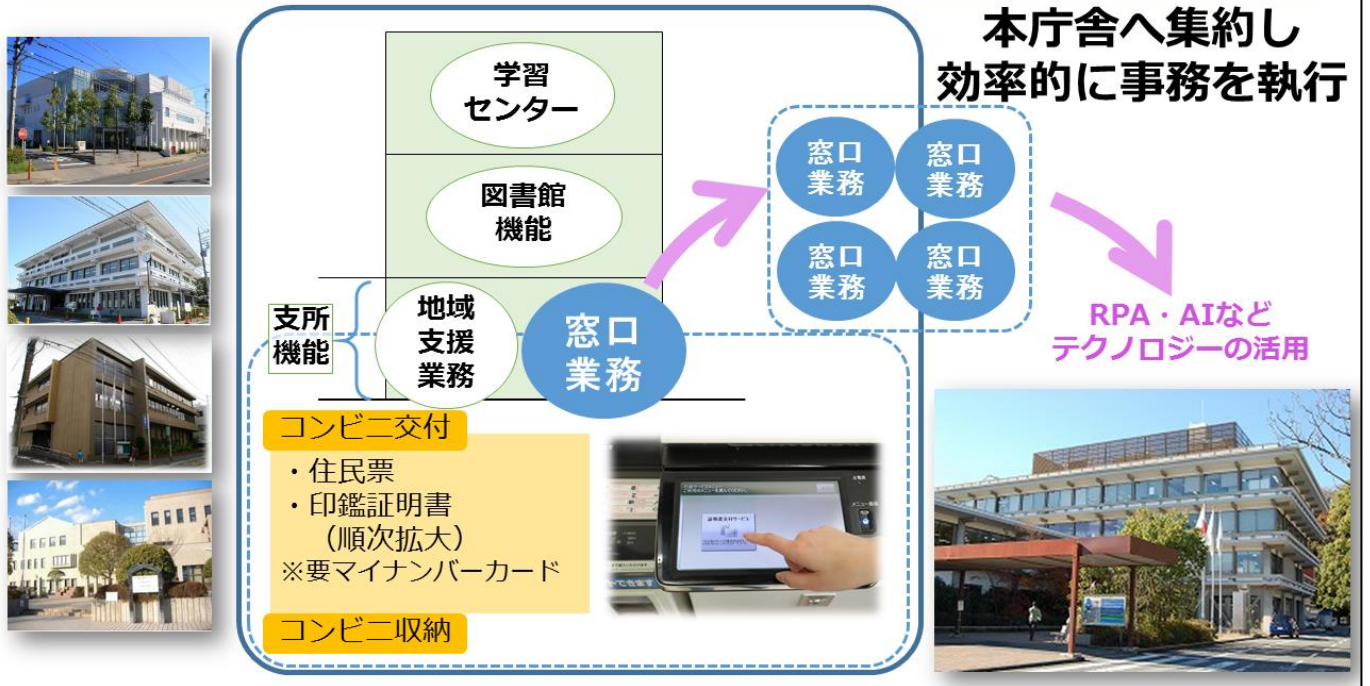




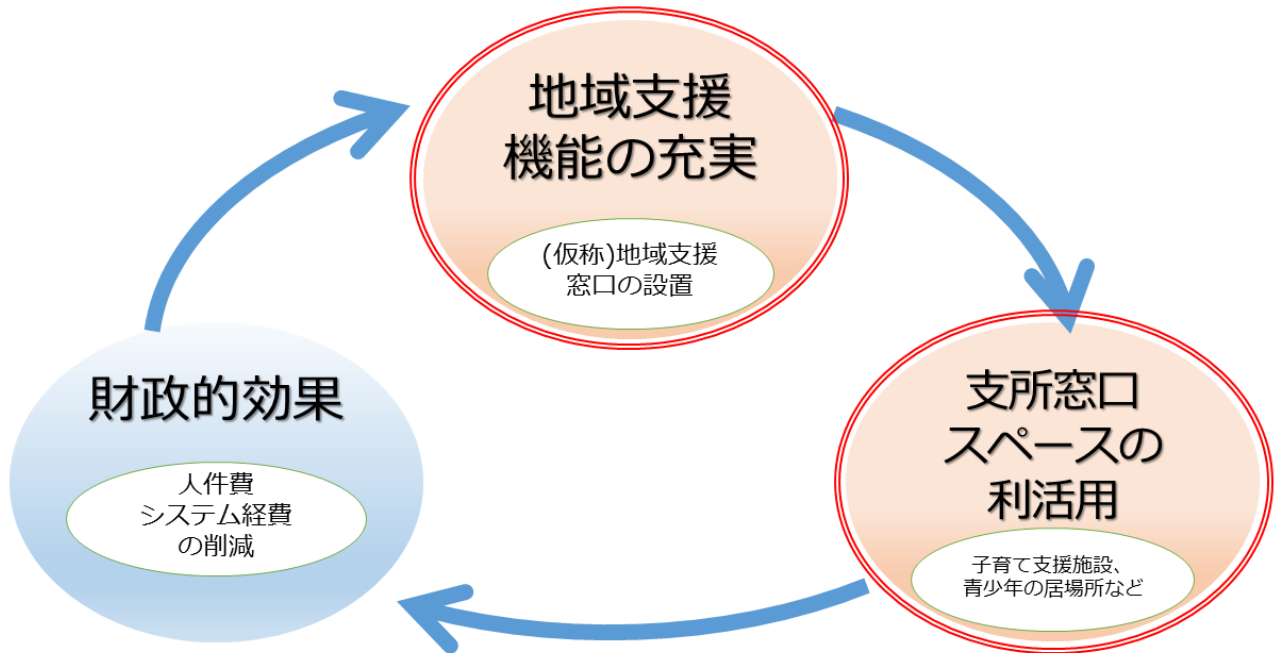


6 Fには、市民交流スペースがあります

鎌倉市政の抱える課題（公共施設の再編計画）



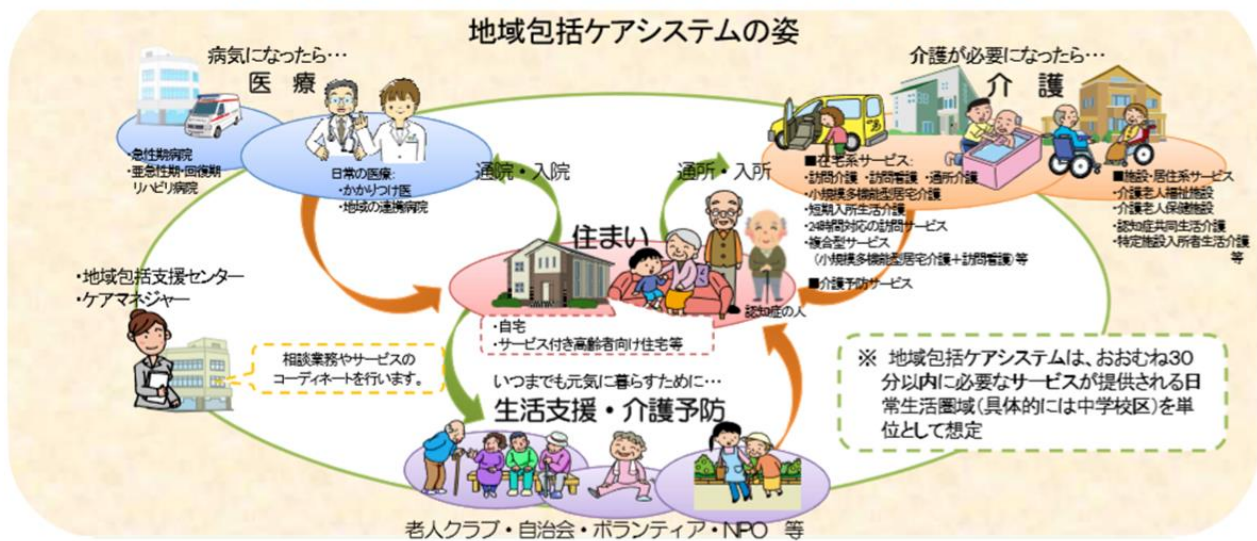
鎌倉市政の抱える課題（支所業務のあり方）



鎌倉市政の抱える課題（住み慣れた地域で生活するために）

『住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるまち』をつくる

地域で医療・介護・予防・生活支援・住まいを一体的に提供



鎌倉市政の抱える課題（住み慣れた地域で生活するために）

産学官民の連携により「地域で地域の課題」を解決する、まちをマネジメントしていく仕組みをつくる

鎌倉リビングラボの全市展開



鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

現状：鎌倉の観光拠点である鎌倉地域は、休日を中心に著しい交通渋滞が発生

これまでの取組

- 鎌倉市交通計画研究会(平成8年度設置)
 - ・市民、学識経験者、交通事業者、関係行政機関等で構成し、地域の交通問題の改善に係る20の施策を提案し、実施可能なものから順次実施
- パークアンドライド(平成13年度より実施)
 - ・鎌倉地域周辺の所定駐車場(4箇所)で公共交通機関(江ノ電、シャトルバスなど)への乗り換えを実施(利用促進策として協賛店での料金の割引やサービスを実施)
- 鎌倉フリー環境手形(平成13年度より実施)
 - ・鎌倉地域の主要観光地をカバーする5路線のバスと江ノ電の鎌倉駅～長谷駅間が1日乗降自由になる切符を販売(利用促進策として協賛店や神社等で割引等を実施)

⇒ 抜本的な交通渋滞の解消は出来ていない



課金により流入交通量をコントロールする**ロードプライシング**を検討

鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

・課金の方向性

課金の方向性について、特別委員会では、次のとおり、基本的な事項をとりまとめました。

項目	内容
①対象エリア	国道134号を除く鎌倉地域とする。
②対象日	全ての土日祝日等(年間120日程度)とする。
③課金時間	8時から16時までを基本とする。
④課金単位	1回ごとに課金(課金箇所に流入1回につき課金)する。
⑤課金対象	鎌倉地域に流入する全ての自動車、二輪車とする。 (緊急車両、福祉車両、障がい者等の車両、路線バス、タクシー、宅配車両、市内に事業所や店舗等がある業務車両は除く。)
⑥課金パターン	市外からの流入車両を1とした場合、市民の負担割合は0~0.1程度とする
⑦課金の使途	システムの運営・管理費、公共交通への転換方策等に充てる

これらの条件を基に法制度面等と併せて、検討を進めています。

鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

今後の予定

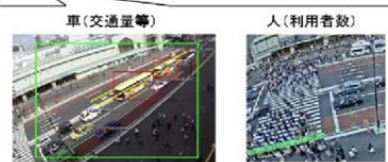
- ・「第3次鎌倉市総合計画第3期基本計画後期実施計画（H29~H31）」に基づき、自動車利用の抑制策等を踏まえた交通シミュレーションを実施し、平成31年度に本市で「(仮称)鎌倉ロードプライシング」の社会実験を実施する予定です。
- ・平成29年9月に国土交通省の「観光交通イノベーション地域」に鎌倉市が選定されました。現在、ICT、AI等の技術を活用し、エリアプライシングを含むエリア観光渋滞対策のためのデータを収集しています。

(仮称) 鎌倉ロードプライシングの概要とシステムイメージ



AIカメラ

AIによる画像処理で交通量調査、自動車起終点調査をIT化



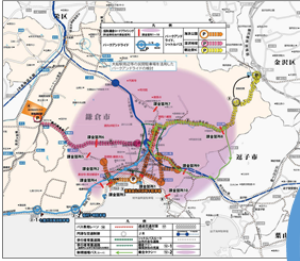
ETC2.0による通信



ETC2.0車載器と路側機との通信により、プローブ情報(位置、速度、急ブレーキ、経路等)を収集

鎌倉市政の抱える課題（渋滞対策）

課金による渋滞解消
課金による財源確保



環境保全

通過交通の排除・渋滞解消により
CO2削減

ロードプライシングの実施コストの他

魅力的な空間創出（歩道・ポケットパーク・サイクリングロードなど）

舗装や交差点改良・交通案内の充実（ICTの活用など）

鎌倉の歴史・文化遺産の継承・活用

まち並みの美観向上・緑化促進

市民・来訪者（負担者）ともに快適なまちへ

歩いて楽しいまち
コミュニティの向上
消費拡大・地域産業の活性化

地域活性化

公共交通による移動快適
緊急自動車等のスムーズな運行

安全・安心

鎌倉市政の抱える課題（健康づくり）

市民の健康づくり活動を支援し、
生活習慣の改善や健康寿命の延伸
を図る

- 健康づくりに取り組むことでポイントが貯まり、貯まったポイントで景品が当たる抽選に応募できるサービスを提供し、市民の健康づくりを応援
- 健診結果等の見える化を図ることで生活習慣の改善及び健康寿命の延伸を図る
- 市内企業等と連携した健康経営の推進

第1部 市長からの説明に対する意見・質疑

<横町町内会・小田切会長>

5月1日号広報かまくら、またホームページでも本庁舎は深沢へ移転すると断定している。公共施設の再編計画スケジュールの中で、どの段階で移転が決定になるのか。

テレワークライフスタイルへの取り組みの記事などを拝見し、さまざまな角度で取り組んでいることは理解するが、最終的な結論が出ていない。今こそ行政の中で選択と集中が求められていると思うがいかがか。

<松尾市長>

移転の正式な決定については、特別議決で議会の3分の2以上の合意を得なければならない。前回の移転の際には新庁舎の開庁式の日には臨時議会が開かれ、議決された前例があるが、それをもって移転の手続きをしていくわけではない。議会において予算等の議決をいただきながら進めていく。

市としては深沢に移転を決め、議会全員協議会において報告させていただき進めているところである。

<山王台自治会・岩田会長>

三点お聞きしたい。一点目は市民への周知が不足しているので多くの市民の意見を聞いて決定してもらいたい。また、住民投票をしてもらいたい。

二点目はコストの問題。以前、議会が財源について責任が持てないから関知しないと言っていた。再開発整備600億円、山崎ごみ焼却場100億円、新駅設置100億円で合計800億円かかる。国からは補助金が出ないので自主財源で進めなければならない。財源はどうか。

三点目は深沢では災害対策本部としての機能が果たせない。現在地では50cm浸水するが、深沢はハザードマップを見ても現在地と同じように浸水する想定になっている。

<松尾市長>

一点目については平成27年から市民にご意見をいただき、選挙でも争点となった。また、昨年から説明を求められたところには市の職員が赴いている。行政の決定であるが、これから予算等について議会の理解をいただいていく。

二点目の財源について、800億円の税金がかかるというのは大きな誤解で、税金の投入は最新の数字で37億円になっている。深沢のまちづくりに投資をすることで価値を高め、それによって税収などの収入を増やしていく。ごみ焼却は市でまかない、移転とは関係なく進めていく。新駅は、国、県、市、JRでの費用負担となるので負担額の調整をしている。

三点目の災害については、浸水より耐震が問題で、耐震構造にするにはコストがかかる。深沢地域も浸水するエリアに入っていることは理解しているが、柏尾川から一番離れたところに建て、浸水被害が出ないような建築方法を取り入れていく。

<大蔵自治会・福原会長>

賛成か反対かの住民投票をやったらどうか。

<松尾市長>

住民投票も一つの手法だとは思いますが、投票率が高くなかった場合などに、その結論だけで決めてしまうことを考えると十分な機能を果たせないのではないかと考えている。

<大蔵自治会・福原会長>

住民投票が全てではないのは理解しているが、なぜ住民投票をしないのか。

<巨福呂坂町内会・相川会長>

市役所の移転が市民の周知が足りないまま決まるのは疑問である。巨福呂坂町内会のほとんどの人は移転に反対している。優先順位として、災害時に市役所を残すことよりも、少しでも多くの住民の命を救うことが重要ではないか。市民の意見がより多く反映される方向で考えてもらいたい。

<松尾市長>

引き続き丁寧な説明を行い、周知をはかっていきたい。優先順位として災害対策を最重要課題と捉えており、災害時の役所の機能維持が市民全体の命を守ることに繋がると考えている。その中で費用を一番抑えられるのが移転と考えている。また、そのことを周知していくために逐次広報かまくらに情報を掲載しているが、更なる周知のための出前講座をはじめ、取り組みを充実させていきたいと考えている。

<大蔵町内会・福原会長>

移転で180億円、現在地では194億円の費用がかかるとのことだが、差額の14億円で捉われず、本庁舎は鎌倉の中心であるこの場所に置くべきである。

<松尾市長>

鎌倉地域の中心はここだが、市全体で考えたとき、市の人口重心は深沢になる。大船から腰越にかけて住宅地が多く、住民も多い。お気持ちはわかるが、市全体で見たときに深沢が中心になるという事実は受け止めていただきたい。

<小町二丁目自治会・小泉会長>

自治会の会長をしていると色々と言われる。自治会長を集めて、説明を丁寧に進めてもらいたい。

<山王台自治会・岩田会長>

住民投票について投票率が低かった場合の問題に触れた一方で、自分は移転が争点であった市長選挙で選ばれたと言っているが、前回の市長選挙こそ投票率が低かったので深沢に移転する根拠にはならない。出前講座やアンケートでは圧倒的に移転反対の声が多い。市民の声を聴かないのは為政者としていかがか。民意を反映してもらいたい。

<松尾市長>

市長選挙の投票率は前々回は30%で低かったが、前回は約60%であり、多くの民意は反映されている

と考えている。

<雪ノ下岩谷堂町内会・梶田会長>

正式に決まっていないことを5月1日号の広報かまくらに決定したかのように掲載したのは問題ではないか。

第2部 地域の懸案事項に関する報告 【鎌倉地域—東地区】

平成30年度 ふれあい地域懇談会

第2部
過去の課題の経過報告



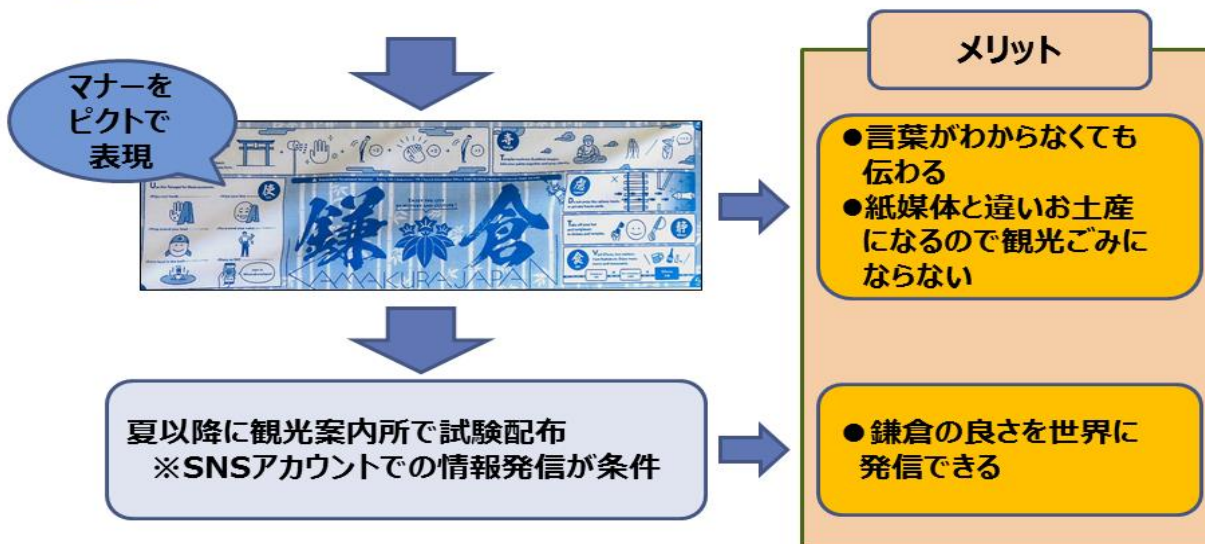
鎌倉地域-東地区

- 観光客のマナーの改善について
- 災害時の観光客対策について

観光客のマナーの改善について

【市民生活部 観光課】

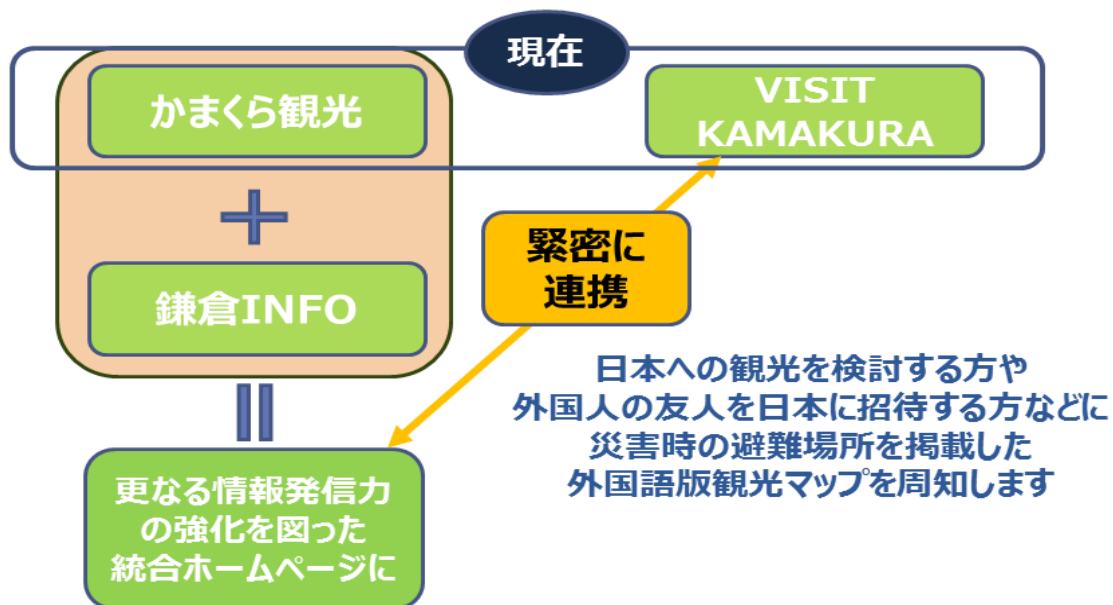
課題 **外国人観光客へのマナー周知**



災害時の観光客対策について

【市民生活部 観光課】

災害時の避難場所を掲載した外国語版観光マップの周知に
観光ホームページの更なる活用を検討



第2部 「地域の懸案事項に関する報告」に対する意見・質疑

観光客のマナー改善について

<雪ノ下岩谷堂町内会・梶田会長>

小町通りのマナー改善に皆さんのアイデアがほしい。飲み食い歩きを禁止する条例を作ってほしい。

<松尾市長>

観光客へのマナー周知の上、住民の皆さん、商店街の皆さんと地元の特化した取り組みの議論をしていきたい。

第3部

本年度の地域の議題に関する懇談

鎌倉東－H30－1	ごみ処理関連問題及び今後の方針についての報告
鎌倉東－H30－2	交通問題について
鎌倉東－H30－3	防犯カメラの設置について
鎌倉東－H30－4	回覧等について

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	鎌倉東－H30－ 1
テ ー マ	ごみ処理関連問題及び今後の方針についての報告
内 容 詳 細	<ul style="list-style-type: none"> ・ 戸別収集の現状 ・ モデル地区の現状 ・ 新規焼却場について ・ バイオ処理場について
担 当 部 課	環境部 ごみ減量対策課 環境施設課

議題に対する回答等

【戸別収集・モデル地区の現状】

戸別収集については、平成 30 年 10 月までに燃やすごみ 1 品目の全市実施を目指して、まず、平成 27 年市議会 12 月定例会に戸別収集モデル地区における先行実施に向けた、収集のための補正予算案を提出しました。しかし、戸別収集は費用対効果が低い、住民の理解が得られていないなどの理由から、モデル地区の戸別収集を取りやめ、クリーンステーション収集に戻すよう予算が修正されたため、平成 28 年度予算に戸別収集関連予算を計上しないとした経緯があります。

戸別収集の実施について、賛成・反対それぞれのご意見をいただいておりますが、戸別収集を実施するためには、費用対効果や戸別収集のメリットなどを改めて整理するなど、市民の皆様のご理解が得られるよう、引き続き検討しています。

また、モデル地区については、平成 24 年 10 月から山ノ内、鎌倉山、七里ガ浜の 3 地区で実施していたものですが、上記の経緯を踏まえ、平成 28 年 2 月をもってモデル事業を終えました。（ごみ減量対策課）

【新規焼却場について】

新ごみ焼却施設の建設候補地は、平成 27 年 4 月に「山崎下水道終末処理場未活用地」とすることを公表し、その後、平成 27 年 10 月近隣自治町内会で構成する「新ごみ焼却施設建設に反対する会」が結成され、これまでの話し合いで、周辺住民の皆様から「2つの迷惑施設を受け入れることは容認できないので、白紙撤回」を強く要望され、話し合いが平行線となっています。

【次ページあり】

平成 29 年 10 月の「反対する住民の会」との話し合いの中で、市長から「まず、山崎浄化センターの臭気等課題について、新ごみ焼却施設建設とは別に、早急に対応していく」ことを説明した上で、「新ごみ焼却施設の建設に関しては、負担の公平性という非常に切実な意見をいただいていることを十分に認識し、新ごみ焼却施設建設を基本とするが、ごみ処理は広域連携等さまざまな手法が考えられることから、もう少し協議の枠を広げていきたい。」旨を説明しました。

これを踏まえて、平成 29 年 11 月に鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化検討協議会において、「鎌倉市の可燃ごみを逗子市の施設で焼却することを視野に入れた、広域連携の可能性について検討いただきたい。」旨を要請し、了承され、検討を進めてきました。当初結論は、平成 29 年度中を目処にしておりましたが、今後のごみ処理体制という重要な判断をするための判断材料が全て得られていないため、引き続き検討することになりました。

平成 30 年 3 月に、10 回目の「反対する住民の会」と話し合いを行い、市長から「可燃ごみの広域連携の検討について、判断するための熟度に達していないため結論を出せなかった」旨を説明するとともに、「改善の約束をしている山崎浄化センターの臭気対策、上部利用の検討及び市が取得した JR 引込み線を活用した周辺まちづくりの推進について、新ごみ焼却施設建設とは別に協議検討を進めていきたい」旨を説明し、現在、上部利用等について検討している状況です。

本市の可燃ごみの焼却処理については、新ごみ焼却施設の必要性や可燃ごみの広域連携の可能性等について、本市の安定的なごみ処理体制を構築することを前提に評価を行い、平成 30 年度末までには市の方針を明確にしていきたいと考えています。(環境施設課)

【バイオ処理場について】

市では、環境負荷の少ない「循環型社会」を形成するため、市民・事業者・行政が連携・協働して焼却量や埋め立てを限りなくゼロに近づける「ゼロ・ウェイスト」の実現を目指しています。

従前は、ごみ焼却量を削減するため、燃やすごみの多くを占める生ごみを分別していただき、生ごみと下水汚泥を混合処理してバイオガスを発生させ発電する施設を建設する予定でしたが、平成 22 年 11 月に、同様規模の施設が全国的に少ないことや、施設整備や維持管理に経費がかかることから、施設を建設しないで様々なごみ減量・資源化施策により、ごみ焼却量を削減する方針に見直しを行いました。

しかし、生ごみは資源化可能な品目であることから、第 2 次ごみ処理基本計画には「小規模な施設による処理方策の検討」としていましたが、平成 28 年 10 月策定の第 3 次ごみ処理基本計画では「可能な品目から順次資源化を実施する」と推進するよう位置付けました。

【次ページあり】

鎌倉市、逗子市、葉山町の広域連携においても、共通の課題として捉え、協議の中で、逗子市と葉山町が施設整備を行った上で家庭系生ごみの施設整備を行い資源化を図ることが示されました。このため、本市においても資源化の検討を行なった結果、本市の土地事情や周辺への影響を考慮し、大規模な施設整備を必要としない、単純で確実な手法で成果物の活用も見込め、施設整備費、維持管理費が廉価な生ごみ減容化施設の整備を検討しています。（環境施設課）

添付資料

<浄明寺町内会・荒井会長>

ごみ処理問題について、山崎は反対する住民が多く、逗子で処理するという話があるがどうなっているのか。自区内処理が原則ではないか。

<松尾市長>

戸別収集については費用対効果が課題で、費用対効果に見合うように実施できないか検討中である。

新焼却場については、山崎での建設に向けて地元と話し合いを重ねているが、地元は白紙撤回を主張している。いまの膠着状況を鑑み、逗子・葉山との広域連携を含めて広く検討したい。

バイオ処理場については、循環型社会の形成のために必要と考えており、逗子葉山のケースを参考にして予算計上を試みたが、議会の承認を得られなかった。引き続き住民の皆さんのご理解いただけるよう、丁寧な説明をしていきたい。

<雪ノ下岩谷堂町内会・梶田会長>

1年半前に山崎決定を告知したが、何も決まっていない。皆でアイデアを出していくのが良いのではないか。

<環境部・石井部長>

ごみの減量化資源化を図り、焼却量を減らし焼却施設の規模を小さくすることが重要と考えている。3Rの考えである発生抑制、再使用、再生利用について対応していくことによって、焼却施設規模の縮小を図り、住民の皆さまの理解を得ていくことが重要と認識している。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	鎌倉東－H30－2
テ ー マ	交通問題について
内 容 詳 細	<p>観光地鎌倉の今後ますます交通渋滞が予想されます。現時点での「交通渋滞の解決策」についてお伺いしたい</p> <p>(1) 交通渋滞の解決策について</p> <p>(2) 鎌倉から大船に向かう場合 2 箇所の J R の踏切を渡らねばならないがこれをトンネル化すべきと考えるが何故できないのか</p> <p>交通弱者のお年寄りの足を確保するための乗り合いタクシー、オンデマンド交通等の導入について（駅から 1.5 キロ～2 キロの自治・町内会は交通の足の確保が課題である。ミニバスも運行していない地域において、駅や病院への足をどう確保するか、市の政策をお尋ねしたい）</p> <p>(1) ミニバスの入らない狭い道に面している地域へのワンボックスカーの定期便導入</p> <p>(2) 乗り合いタクシー制度の導入</p> <p>(3) タクシー補助券の導入</p> <p>など、市の政策をお聞かせください</p>
担 当 部 課	共創計画部 交通政策課

議題に対する回答等

【交通渋滞の解決策について】

交通渋滞を生じている鎌倉から大船に向かう県道は、都市計画道路として整備すべき路線として位置づけられていますが、現状は、沿道には建物等が連坦し、その実現には所有者等の理解が必要になります。鎌倉市としても、J R 踏切の立体交差や歩行者空間の拡充を含め、道路整備は必要な状況であると認識していますが、実現にはかなりの長い時間が必要であるという認識も合わせて持っています。このことから、当該県道における交通需要を抑制し、結果として交通渋滞を解消する方策として、流入する車両に課金を行う「(仮称) 鎌倉ロードプライシング」の実施を検討しています。

【次ページあり】

【交通弱者の足の確保に関する政策について】

交通弱者の足の確保については、市単独での交通手段の確保が困難であり、交通事業者の協力が不可欠となりますが、事業の採算性が大きな課題となっています。引き続き、地元から声があればバス事業者に届けるとともに、NPOなどの地域住民等が主体となって運行する交通手段として乗り合いタクシーなどの事例もあることから、他の自治体の取り組みを含め、研究していきたいと考えています。

添付資料

<十二所町内会・角田会長>

県道金沢鎌倉線をはじめとする渋滞解消については交通検討委員会等でも検討されており、ロードプライシングについてのデータ解析なども良いと思うが、もっと身近な解決法はないのか。報国寺に行く観光客や鎌倉霊園に行く人が増えている。それらに伴う渋滞解消について、市民の逃げ道となる交通路を考えてもらいたい。

鎌倉霊園から逗子の裏駅にミニバスを巡回させたらどうか。逗子のプールを経由するルートであれば、利便性もあがる。

<大蔵自治会・福原会長>

鎌倉から横浜方面に向かう国道に2箇所ある踏切をトンネル化してはどうか。2箇所の踏切をどうにかしてもらいたい。

<山王台自治会・岩田会長>

谷戸や扇ガ谷の奥にはバスが通っていない。お年寄りが多いので乗り合いタクシーやタクシー代の補助を考えてもらえないか。鎌倉の共通課題である交通弱者の対策を考えてもらいたい。

<松尾市長>

交通弱者の問題は重要課題と認識しており、できるところからやっていく。ミニバスのルートなどについては、住民の皆さまと共にバス事業者に働き掛けをしていく。ミニバスの増発は、バス事業者をお願いしているが採算の問題などから応じてもらえていない。乗り合いタクシー、NPOの協力など、地域の皆さまの実情にあった形を見つけていきたい。

<鎌倉ハイランド自治会・阿部会長>

介護施設のバスが2便程度住民利用を促してくれている。生活に根ざしたことなので、介護施設などとの連携により、地域で解決できることもある。

<浄明寺町内会・荒井会長>

昭和40年代頃、都市計画道路が宝戒寺から岐れ道まで広がり、歩道もできた。計画は明石橋までだが、進んでいないので進めてほしい。

長谷から134号線に抜ける道はあるが、工事が進んでいない。由比ガ浜から長谷の通りまで抜ける道があれば、由比ガ浜に計画されている商業施設の渋滞解決にもなる。道路の拡幅を進めてもらいたい。

<雪ノ下岩谷堂町内会・梶田会長>

八幡宮脇の駐車場に大型バスが多く停まっていることで、八幡宮から大船への道が渋滞している。ターンテーブルをつけて回転させることによって、渋滞解消につながるのではないかと。市で調査をしてほしい。

<松尾市長>

バス会社への働き掛けなど進めたい。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	鎌倉東－H30－3
テ ー マ	防犯カメラの設置について
内 容 詳 細	<p>現行では各自治・町内会へ設置の有無を問われている。 各地域に問うのではなく、全域での防犯カメラ設置状況を把握の上で、新たに、このあたりに防犯カメラ設置を望みたい→自治・町内会へ協力の要請をしていくべきでは。 運用基準も共通化し、維持管理も市がまとめるのはどうでしょうか。</p>
担 当 部 課	防災安全部 市民安全課

議題に対する回答等	
<p>「行政での防犯カメラの設置(及び維持管理)」については、プライバシー等の観点や地域の状況等により防犯カメラに対する考え方も異なることから、地域のご意見を尊重する観点から、地域住民により運用ルール等が了承され、防犯カメラが必要だとされた地域に補助金を交付する手法を用いている自治体が多数となっているところ です。</p> <p>現在は、県が 18 万円を上限として設置費用の 2 分の 1 の交付決定をした申請に対し、市が 9 万円を上限として 4 分の 1、合計 27 万円を補助することで、防犯カメラの普及を図っているところ です。</p> <p>本市は、人口 1,000 人当たりの刑法犯認知件数が、県下他市の中でも少なく、犯罪が少ないまちではありますが、防犯カメラは犯罪抑止や犯罪捜査に寄与できることから、防犯カメラのあり方については、各市の動向や犯罪発生状況等を踏まえ、考えてまいります。</p>	
添付資料	

<西御門自治会・福井会長>

防犯カメラの設置は、費用面や設置要領、ガイドラインに沿って進める必要があることなどから、自治・町内会では難しいと感じている。警察と市が連携し、確実に設置できる体制にした方が良い。データを一箇所に集中させるためにも、市と警察の主導が良いのではないかと。

<松尾市長>

防犯カメラを設置したくないとの声も根強く、県の補助ができたことなどから地域の中で合意形成した方が良いのではないかと考え、自治会にお願いしてきた経緯がある。県の補助がなくなるという話もある中で、市としては引き続きの補助を要請しているが、今後のあり方を含め検討していきたい。

<西御門自治会・福井会長>

取り付けたいと希望する方はいるが、自治・町内会での管理運営は厳しい。

<小町上町明光自治会・宇都宮会長>

防犯カメラの有用性は認められてきたが、実際の設置場所など、周囲の町内会との連携が必要である。

<防災安全部・柿崎部長>

市民安全課にお知らせいただければ調整します。

平成 30 年度ふれあい地域懇談会（第 3 部） 回答票

番 号	鎌倉東－H30－ 4
テ ー マ	回覧等について
内 容 詳 細	<p>自治・町内会へ鎌倉市からの依頼事は日常的にかなりの物量となっています。大所高所ばかりでなく、情報伝達の一翼を自治・町内会は担っています。広報かまぐらへの配布でも経費はどれくらいですか。大きな自治・町内会では市から届いた配布物を 70 ブロックに分けての回覧準備をし、70 ブロックの長に届けて回覧が始まるのです。</p> <p>お手伝いいただき皆さんへは、その都度お礼を渡している所もあります。市にお礼を考えてもらえませんか。</p>
担 当 部 課	市民生活部 地域のつながり課

議題に対する回答等	
<p>自治会・町内会への回覧については、多くの部署が行っており、種類も多数あります。自治会・町内会長のご負担を減らすために、原則として「広報かまぐら」又は他の方法を活用し、回覧として送付する場合は、毎月第 2、第 4 木曜日に発送するルールを作成して、全庁的に周知を図っています。このルールについては、再度周知を図り、効率的に配布できるような形で取り組んでいきます。</p> <p>なお、謝礼や謝金などの制度については現在有しておりませんが、引き続き、自治会・町内会長の負担を減らすために、庁内のみならず、関係団体にもルールの徹底について呼び掛けてまいります。</p>	
添付資料	

<二階堂新和会・大久保会長>

市から見た自治会の位置づけを確認したい。1020世帯への回覧物・配布物の準備手数がかなりかかっており、配布を手伝ってくれる方にお礼を渡している。市から援助はできないか。また、自治会に入っていない人に対する情報伝達はどうすれば良いのか。

<松尾市長>

自治会と市は対等なパートナーであると考えている。毎月第二第四木曜日に発送するルールの周知徹底を図っている。お礼については難しい。会員でない方への情報伝達については自治会で行うことは難しいので、お考えにならなくて良いと考えている。

付 録

当日配布資料

- 1 地区別危険箇所マップ
- 2 鎌倉市市政e-モニター登録のご案内
- 3 鎌倉市ふるさと寄附金